

# 東京 シンフォニエッタ

## 第44回定期演奏会

### 打楽器

—東京シンフォニエッタのソリストたちと  
ドミニク・フレスハウアース氏を迎えて

石崎陽子

松倉利之

和田光世

石井眞木

ドミニク・フレスハウアース

武満徹

雨の樹 (1981)  
一柳慧

サーティーン・ドラムス (1985)  
ユーイ・ラウケンス

打楽器協奏曲 (2011)

**Percussion**  
featuring Solists of  
Tokyo Sinfonietta  
and  
Dominique Vleeshouwers

2018.  
**12.10** [MON]  
18:30 開場  
19:00 開演

**トッパンホール**

〒112-0005 東京都文京区水道1-3-3 TEL 03-5840-2200

全席自由 一般 4,000円 学生 2,000円

[出演] 指揮：板倉康明

打楽器：松倉利之、和田光世、石崎陽子、  
ドミニク・フレスハウアース

演奏：東京シンフォニエッタ

主催：一般社団法人 東京シンフォニエッタ 制作協力：東京コンサーツ

助成：芸術文化振興基金  オランダ王国大使館 広報・政治・文化部/  
アートカウンシル東京 (公益財団法人 東京都歴史文化財団) ARTS COUNCIL TOKYO 

※出演者、曲目は予告なしに変更になる場合がございます。

## 打楽器 — 東京シンフォニエッタのソリストたちとドミニク・フレースハウアース氏を迎えて

## ごあいさつ

東京シンフォニエッタ音楽監督 板倉 康明

もちろん音楽なので確固たる証拠はありませんが、私たち人類が楽器として用いた最初の楽器は打楽器であったに違いありません。木や石を叩いたり、後には金属、または皮を使ってさまざまな場面で使われ続けています。それ以前に手にしていた「声」では表しきれなかった事を聞かせるために使われ続けています。その発音原理の単純さから、最も簡単で難しい楽器です。リズムのためのみでは無く、その多彩な音色から現代の作曲家が研究し、さまざまな世界観を示しています。東京シンフォニエッタの特徴である素晴らしい音を持った私たちの仲間、松倉利之さんを中心に和田光世さん、石崎陽子さんの三人に焦点を当て、今回の演奏会を考えました。それぞれ石井眞木、一柳慧、武満徹と言う日本を代表する作曲家の作品でその個性をお聞き頂きます。この演奏会の企画を練っている時、偶々、オランダで行われている「トロンプ打楽器フェスティバル」の責任者が東京シンフォニエッタと深い関係のある Van der Drift 氏だったことから彼の協力を得て、今回、そこでのコンクールの優勝者、ドミニク・フレースハウアース氏をソリストとして派遣して頂き、本選課題曲だったラウケンスの「打楽器協奏曲」の日本初演を行います。

これも偶然ですが2009年に東京シンフォニエッタが、オランダのガウデアムス音楽祭に招待された際、その準備期間でオランダの若手作曲家にガウデアムス財団と東京シンフォニエッタで共同委嘱をしようとなった時に選ばれたのが彼でした。その後、オランダでどんどん有力な作曲家となり、課題曲が委嘱された訳です。そんな彼の成長を見るのも大変喜ばしく、楽しみです。こうやって世界のいろいろな所と東京シンフォニエッタが関われるのも音楽だからこそと考えています。打楽器奏者の団体以外でこのように打楽器のみに焦点を当てた音楽会は大変稀なので、みなさまぜひご来聴下さいませよう。また今回の演奏会に対し、多大なご協力を頂きました。在日オランダ大使館、トロンプ打楽器フェスティバル、アダムス、パール楽器に深く御礼申し上げます。

Music Director  
板倉 康明Flute  
斎藤和志  
齋藤光晴  
下弘桐子Oboe  
辻 功  
渡辺康之Clarinet  
西澤春代  
佐藤和歌子  
川越あさみBassoon  
多田逸久  
長 哲也  
守屋有紀Horn  
有馬純晴  
中島大之  
岸上 穰Trumpet  
高橋 敦  
坂井俊博Trombone  
西岡 基Tuba  
渡辺 功Saxophone  
小串俊寿Percussion  
松倉利之  
和田光世  
石崎陽子Harp  
木村茉莉Piano  
藤原亜美Violin  
山本千鶴  
海和伸子  
梅原真希子Viola  
百武由紀  
吉田 篤  
守山ひかるCello  
花崎 薫  
高麗正史  
宇田川元子Contrabass  
吉田 秀  
那須野直裕Electronics  
有馬純寿

## Soloists &lt;Percussion&gt;

## 松倉利之

東京藝術大学音楽学部器楽科卒業、同大学院音楽研究科修了。在学中に安宅賞受賞。1980年パリ国際現代音楽コンクール打楽器部門で第2位入賞(1位無し)。主に室内楽、室内オペラ、オーケストラの分野で演奏活動を行っている。現在「パーカッショングループ72」のメンバー、及び大分県立芸術文化短期大学名誉教授。

## 石崎陽子

東京藝術大学音楽学部附属高校を経て、同大学卒業、及び大学院修了。在学中、安宅賞受賞。第7回日本管打楽器コンクール入選。読売新聞社主催新人演奏会出演。ニューイングランド音楽院コンテンポラリー・インプロヴィゼーション科留学。帰国後、藝大フィルハーモニア管弦楽団に2年在籍(非常勤講師)。和田氏とのデュオで第5回現代音楽コンクール「競奏」第3位入賞。

## 和田光世

東京藝術大学音楽学部器楽科卒業、同大学院音楽研究科修了。「モーニングコンサート」出演、1998年演奏会堂でソロリサイタルを開催。第7回日本管打楽器コンクール第3位、「競奏V」第3位受賞。打楽器四重奏団「Shun-Ka-Shu-Toh」、Percussion unit UNZARI、東京佼成ウインドオーケストラメンバー。

## ドミニク・フレースハウアース

2013年にアムステルダム芸術大学を首席で卒業後、翌年トロンプ国際打楽器コンクールで第1位受賞。アスコ・シェーンベルク・アンサンブル、オランダ室内管弦楽団などと共演。異分野の音楽家、芸術家との領域横断的なコラボレーションも行う。2016年、洗足学園音楽大学でエマニュエル・セジヨルネとともにマスタークラスを開催。

## 武満徹(1930-96)

東京に生まれ、ほぼ独学で作曲を学ぶ。1951年、音楽家、画家、詩人らと芸術家グループ「実験工房」を結成。57年に発表した《弦楽のためのレクイエム》がストラヴィンスキーに称賛される。日本の伝統楽器を用いたさまざまな試みは《ノヴェンバー・ステップス》、《秋庭歌一具》のほか「怪談」、「切腹」、「乱」などの映画音楽に実を結んだ。90本以上の映画音楽を含むその作品は、現在世界中で演奏されている。日本万国博覧会鉄鋼館の音楽監督、Music Todayの企画構成者、サントリーホール国際作曲委嘱シリーズの企画監修者、東京オペラシティの芸術監督等を務め、日本の音楽界の中心で幅広く活躍した。フランス芸術文化勲章、尾高賞、日本芸術院賞、京都音楽賞大賞、毎日芸術賞、サントリー音楽賞など国内外の多くの賞を受賞。1996年2月20日死去。享年65歳。



## 一柳慧(1933-)

神戸生まれ。作曲家、ピアニスト。10代で毎日音楽コンクール作曲部門第1位を2度受賞。19歳で渡米、ニューヨークでジョン・ケージらと実践的音楽活動を展開し、1961年帰国。偶然性の導入、図形楽譜の使用などを通して諸分野に強い影響を与える。尾高賞(5回)、フランス芸術文化勲章、毎日芸術賞、京都音楽賞大賞、サントリー音楽賞、紫綬褒章、旭日小綬章などを受賞(章)。オペラから、交響曲(10曲)、室内楽作品、雅楽、声明を中心とした大型の伝統音楽に至るまで、多岐にわたるジャンルを手がけ、音楽的空間性を追求した独自の作風を展開している。作品はフランス国立管弦楽団、BBC交響楽団、チュールリッヒ・トロンハル管弦楽団などによって、世界各地で演奏されている。神奈川芸術文化財団芸術監督、アンサンブル「千年の響き」芸術監督。



## 石井眞木(1936-2003)

東京生まれ。父は舞踊家石井漢。伊福部昭等に作曲を学んだ後、1958年に渡独。ベルリン音楽大学作曲科に在籍しボリス・ブラッハー、ヨーゼフ・ルッファに学ぶ。1969年、西ベルリン市の「芸術家プログラム」に招聘され、以降ベルリンと東京を本拠に、作曲家、指揮者として精力的に活動。その代表作の一つ、バレエ作品《輝夜姫》(ネザーランド・ダンス・シアター)は、石井の東洋的要素を取り込んだ音楽とイリ・キリアンの振付が独自の世界を表出し、1988年の初上演以降、世界各地で100回以上の上演を重ねている。また、<東京の夏>音楽祭立ち上げ等、大型の企画のオーガナイザーとしても才を発揮し、中国においては1996年「東京の響き in 北京」、1997年「日中友好合作現代音楽祭」を企画し大きな成功をおさめた。2003年4月8日没。享年66歳。



## ユーイ・ラウケンス

(1982-)

スピーダム(オランダ)に生まれる。ロッテルダム音楽院で作曲、ライデン大学で心理学を学び、トン・ハルトソイケルにピアノを師事。2001年、管弦楽曲《Titaantjes》(1999)と《交響曲》(2000)がネーデルラント・フルハーモニー管弦楽団によって演奏され、注目すべき若手作曲家としてデビューする。音楽院卒業後は、積極的に調性に依拠しながら、カラフルでエネルギーに満ちた音楽を創作し、東京シンフォニエッタの委嘱作品である《ファースト・ムーブメントとエピソード》(2009)、デイヴィッド・ロバートソン指揮ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団によって初演された《アウト・オブ・コントロール》(2010)などが成功を収めた。近作には、アラン・ギルバート指揮ニューヨーク・フィルハーモニックによって演奏された《パウンドレス》(2016)などがある。



## トッパンホール 交通のご案内

江戸川橋駅 地下鉄有楽町線(4番出口)より徒歩約8分  
飯田橋駅 JR総武線(東口)、地下鉄有楽町線、東西線、南北線、大江戸線(B1出口)より徒歩約13分  
後楽園駅 地下鉄丸の内線、南北線(1番出口)より徒歩約10分

## チケット予約

## ■ 東京コンサーツ (問合せ先)

03-3200-9755 (平日 10:00-18:00)  
http://www.tokyo-concerts.co.jp

## ■ トッパンホールチケットセンター

03-5840-2222 (平日 10:00-18:00)  
http://www.toppanhall.com/

## 次回予告 第45回定期演奏会「イスラエルの風」

2019年7月10日[Wed] 18:30 開場 19:00 開演 東京文化会館 小ホール

指揮：板倉 康明 演奏：東京シンフォニエッタ

※出演者、曲目は予告なしに変更になる場合がございます。

TOKYO SYMPHONETTA THE 44th SUBSCRIPTION CONCERT